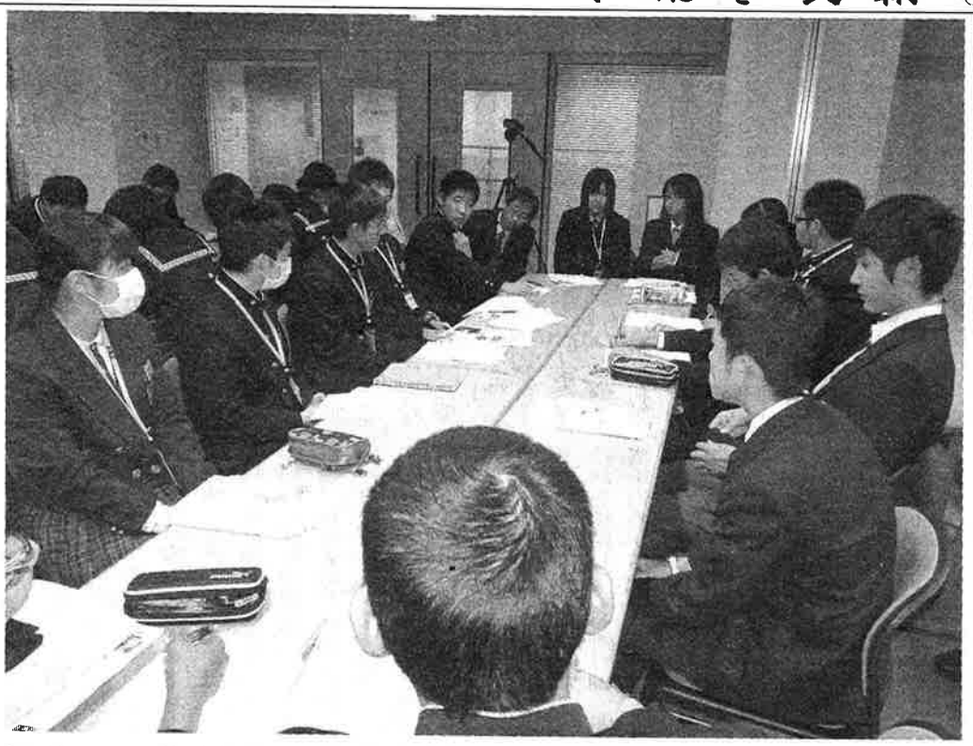

方部ごとに熱心に話し合いが行われた

いわき生徒会長サミット
全体ミーティング開く
活動の進み具合を確認

24年度いわき生徒会長サミットの第2回全体ミーティングが10日、市生涯学習プラザで開かれた。本年度はタイの山岳地帯への学校建設に取り組むことを決め、活動を進めている生徒たち。ミーティングでは、「ワンコインスクールプロジェクト」活動の実践事例を発表するとともに、各校の取り組み状況の確認などを行いながら、建設に向けて思いを新たにした。

生徒会長サミットのメンバーが、今年の活動と小名浜一の4校がこれまでして取り組むことを決めての活動状況を説明した、タイへの学校建設。

東日本大震災で寄せられた支援へ感謝の気持ちを今年6月に全校生徒にプ表すとともに、復興に向ロジェクトを説明。分かけて動いている自分たちりやすいようにと、生徒の姿を全世界に向けて発会役員が寸劇を交えなが信しようと、チャレンジら、活動の概略を伝え、を決めた。東南アジアの活動の実践事例を発表するとともに、各校の取り組み状況の確認などを行いながら、建設に向けて思いを新たにした。

生徒会長サミットのメンバーが、今年の活動と小名浜一の4校がこれまでして取り組むことを決めての活動状況を説明した、タイへの学校建設。

東日本大震災で寄せられた支援へ感謝の気持ちを表すとともに、復興に向けて動いている自分たちの姿を全世界に向けて発信しようと、チャレンジらを決めた。東南アジアの山岳地帯の中学生へ支援活動を展開しているNPO法人アジア教育友好協会（AEFA）と手を携え、活動に向けて動き出した。

年度当初、AEFA側が学校建設に向けて提案した手法は「ワンコインスクールプロジェクト」。同プロジェクトは、日本の子どもたちの「行動と力」で学校を作ることを目的にし、2010年に第1校がラオスに誕生している。

「手伝いをしたら30円」「英単語を10個覚えたら50円」など、それぞれに目標を掲げ、1人500円目指してためた金を、建設資金に充てる。親に頼って単純に金を集めるのではなく、目標達成を通して学びを得ながら、資金を作る。

◇　◇

当日は、まず全体ミーティングが行われ、「ワンコインスクールプロジェクト」の実践事例の発表では、草野、平三、錦、小名浜一の4校がこれまでの活動状況を説明した。

このうち、草野中では、今年6月に全校生徒にプロジェクトを説明。分かりやすいようにと、生徒会役員が寸劇を交えながら、活動の概略を伝え、プロジェクトをスタートしたという。

また、平三中では、生徒会長の熱意を感じ、生徒は2週間で、期間終了後には達成度を振り返り、カードに感想を書くとともに、募金を提出した。草野中の活動を参考に、寸劇を取り入れて全校生徒へ理解を促した。

プロジェクトの要となる「がんばりカード」には、1人ひとりが取り組みが形になり、役に立つのはよいこと。タイのためになればうれしい」「すごく気持ちがいい活動。一日でも早くタイに学校ができてほしい」などの感想が寄せられた。

このあと、方部ごとに分かれてミーティングを持ち、各校の進ちょく状況を報告。活動に開きがある中でも、それぞれに現状をどのように打開し、目標へと近付いていくかを熱心に考える姿が見受けられた。

まとめに立った副議長の八島駿介君（勿来二中）は「1人1人がみんなを先導していかなければいけないプロジェクト。困難もあるが、あきらめるわけにはいかない」と強い決意をにじませながら、「ただの支援ではなく、恩返しを行う、世界初のプロジェクト。最高の恩返しをして、いわきから世界への一歩にしましょう」と呼びかけた。

議論を交わす様子を見守っていたAEFAの谷川洋理事長は、生徒たちの姿に感激した様子。中学校建設に向けて取り組む生徒たちに、自身の姿を見せるためにも、中学校に通う生徒たちの寮を、自身の亡くなった妻の名を冠して寄贈することを明らかにした。

「世界初の取り組みの結果を見せられるように、できることはなんでもする。まず、皆さんが一歩を踏み出し、やる気、勇気、本気で変える。未来を背負う中学生になることを期待している」とエールを送った。

生徒にエールを送る谷川理事長

取り組み状況を発表する生徒

今回も会場は目標達成に向けた熱気に満ちた